

図書館ネットワーク研修会の記録

平成28年2月12日（金）午後2時～4時20分

於：さいたま共済会館 505 会議室

参加者 23名

「宮城県図書館情報ネットワーク MY-NET の紹介」

眞籠 聖 氏（宮城県図書館 企画管理部企画協力班）

皆様初めまして。宮城県図書館企画管理部企画協力班の眞籠と申します。本日はこのような場にお招きいただきありがとうございます。今回は宮城県図書館が行っております、市町村に対する図書館協力の一環としての情報ネットワーク「MY-NET」について説明をさせていただきたいと思っております。



【宮城県図書館の協力支援事業の概要】

宮城県図書館は宮城県の県立図書館です。宮城県は埼玉、神奈川といった人口の多い県ではなく、人口 230 万人くらいです。埼玉県と比べると人口は3分の1ですが、面積は広く埼玉県の2倍くらいの広さがあります。そうした広くて人が散らばっているところで全県サービスを行うということが、県立図書館としての非常に重要な役割になると考えております。

まずこちらの図に示しましたのが主な宮城県図書館が行っている市町村に対する協力事業です。県立図書館で一般的に行っている協力貸出や、市町村のあいだの物流を中継する相互貸借の支援なども行っています。それから協力レファレンス、総合目録、県内の横断検索なども整備しています。

それ以外にも、例えば職員研修など、それぞれの市町村の職員が顔を合わせる場というのが必要になりますので、連絡会議の開催も行います。あるいは各市町村の図書館から「研修を行いたいが、講師を派遣してほしい」といった要望があった際に出前講座を開催したり、巡回相談で定期的に相談に乗ったりしています。

図書館協力の一部として、年3回連絡会議というものを開催して、県内の図書館や公民館の図書室の職員が一堂に会する場を作っています。毎年4月には公民館長さんも含め全市町村の読書施設の長をお招きして館長会議を開きます。同じく4月に初めて図書館に配属されたという職員、市役所の異動で図書館に初めて来たという職員もいますので、そういった職員向けに図書館の業務についての初任者研修も行います。そこで著作権の話や、県図書館の業務について説明をしています。

相互貸借などそれぞれの実務的な連絡、例えば「貸出条件が変わりました」というような連絡を行う担当者の連絡会議を年2回開いています。そのほかに

もテーマ別の職員研修を行います。その年によってテーマが変わりますが、例えば児童サービスの読み聞かせの研修や、あるいは国会図書館で毎年派遣研修を募集しているので、それに応募して国会図書館の講師を招いて研修を開催しています。今年はレファレンス協同データベースの研修を開きました。実際にパソコンルームを使用し、操作をしながらレファレンス事例の入力をしてみるという実習を伴う研修でした。他にも去年の9月になりますが、埼玉県立久喜図書館の佐藤聖一先生を講師にお招きしまして、今年4月から施行される障害者差別解消法について御説明を頂くといったように、それぞれ時節のテーマを取り上げて研修を行っております。

先ほどお配りいただきましたイベントのチラシを御覧頂くとわかりますが、こちらにも実は研修の一環となっています。宮城県図書館と東京上野の国立国会図書館国際子ども図書館、大阪の国際児童文学振興財団という大阪府立図書館に附属する財団法人、この三館で連携してイギリスの絵本作家さんをお招きして講演会を開催します。基本的には一般の方向けなのですが、研修も兼ねることで市町村の図書館職員が参加しやすいようにしています。通常一般の方用のイベントとしてしまうと、業務中に参加することがはばかれることとなります。ですが研修という名目で開催することで、市町村の職員が聴講に来ることが可能になります。開催者側としてはお客さんの数も集められますし、県図書館としては研修として市町村図書館向けにイベントを実施できてありがたいというメリットがあります。

次に巡回相談です。こちらにも県立図書館としてのスタンダードな事業だと思えます。全35市町村のうち34市町村を回っています。仙台市は政令市なので、なかなか相談に行くことはできないのですが、そのほかの市町村については毎年前期後期の2期に分かれて全館を回っています。

宮城県は東北では一番狭いといってもかなりの面積がありまして、北側の岩手県との県境である気仙沼市と仙台市は、だいたい120kmくらい離れています。そこまで車で2時間ほど掛けて一日がかりで会いに行っています。さいたま市からの距離にすると水戸市くらいまででしょうか、それくらい遠くてもきちんと顔を合わせて、担当者同士お互いが顔を見知っている関係にしようということを心がけています。そうすることで県立図書館の職員と気軽に話ができるような関係を、巡回相談を通して構築していけるよう意識しています。

各図書館に出向くといえば、出前講座という研修も行っています。通常の研修も年5回ほど開催しているのですが、それにいろいろな要因でなかなか参加できない図書館もあります。日程が合わない、自館のイベントで忙しい、あるいは人を出す余裕がないといった図書館に対して、出前というかたちで県図書

館の人間が出向いて研修を行います。

たとえば本の修理方法についての講習や、レファレンスについての説明などを行います。公民館の小さな図書室ですと、本当に基礎の基礎から伝えないと始まらないというところもあります。NDCとはなにか、図書の分類とは何かというようなところまで、最初からお話しをすることもあります。

私が驚いた経験をお話すると、公民館の図書室ではほとんど無人状態で運営されているところや、ボランティアさんのみで運営されているということがありますので、普段我々が触れているような図書館、図書室といった感じではなく、本当にカオスな状況と感じられることがあります。例えば資料の棚を見たとき「何か違和感があるな」と思ったら、巻号は通常左から右に 1, 2, 3, 4 と並んでいると思うのですが、ある公民館の図書室では右から左に 1, 2, 3, 4 と並んでいたのです。本の並べ方といった、図書館の常識と思っていたものが共有されていなかったことがわかりました。本の並べ方や分類などの基礎的な部分から「ぜひアドバイスさせてください」ということで出前講座をしたこともありました。

このような感じで、御用聞きのようなことをずっと行っています。そのほかにもこれは巡回相談としての面もありますが、御存知の通り 2011 年 3 月 11 日に東日本大震災がありました。市町村の図書館は少人数で運営されていますので、キーパーソンがいなくなってしまうと運営が立ち行かなくなってしまう、ということがありえます。たとえばこちらの左上にある画像を見てください。更地に見えますけども、実はこれ南三陸町の図書館があった場所なのです。基礎からなくなってしまいました。この状態から「さあどうしましょう」というところから市町村図書館の支援が始まるわけです。南三陸町の図書館では生涯学習課長を兼ねておりました館長さんもお亡くなりになってしまいましたので、本当にゼロからのスタートを支援しました。プレハブを寄付して頂けるところとの調整や、資材の支援、システムの導入の支援、それから物理的な手伝いなど、再開にこぎつけるところまでの支援をしました。

左下にあるのは名取市という仙台市から南にある、仙台空港がある町なのですが、そこもやはり地震で非常に被害を受けました。奥にある写真が以前の建物なのですが、外見的にはそこまで問題ないように見えます。しかし地震によって建物の強度が劣化しているということで、使用できなくなってしまいました。仮設の図書館を建てることになり、そのお手伝いをしました。写真の中で書架を組み立てるハンマーをたたっているのが県図書館の職員です。実際に図書館の書架を作るお手伝いもしました。

この写真は気仙沼市の図書館ですが、地震で二階の建物がだめになり、立ち

入り禁止になってしまいました。雨漏りがあり、柱の基礎も崩れてしまい、荷物も本当に崩れた状態になっていましたので、そこを片付けるお手伝いをしました。新館に引っ越すための準備、書庫の整理や新館建設にあたっての設計に関するアドバイスといったことも行いました。こういった災害による被害を受けた市町村図書館に対して、全般的な支援を行うことも県図書館の役割になります。

【「MY-NET」の概要】

それではいよいよ、このような事業、支援を行っている県立図書館では、どういったネットワークによってそれを維持しているのか、実現しているのかというところで今回御紹介させていただくのが宮城県図書館情報ネットワーク「MY-NET」です。

埼玉県でも「サイネット」という仕組みがあるということをお聞きしましたがけれども、ほとんど同じネーミングセンスというのが親近感の湧くところです。こちらの画像が MY-NET トップ画面のスクリーンショットになります。お配りしたレジュメにも同様の画像があります。こんな感じで、すこし見た目は古い、昔ながらの html を使ったウェブページのようなと感じるかもしれませんが、なかなか機能としては優れたものを持っていると思っています。これが基本的には宮城県図書館と県内の市町村図書館をつなぐ情報交換の「要」になるポータルサイトです。

機能を図式化してみました。MY-NET の中にメニューがたくさんあります。宮城県図書館の蔵書検索があり、その検索結果から協力貸出の申込や、購入リクエストができます。県図書館は県内図書館の横断検索のメンテナンスもしていますので、横断検索を MY-NET からおこなって、そこから相互貸借の依頼もできます。そうして申し込んだ資料を県図書館が中継点となって物流のネットワークを実現しています。全国的にどこまで都道府県で物流の費用を負担しているのかは私も把握しているわけではないのですが、市町村間の物流で、どこが費用を負担するのかというのは真剣な問題であると思います。宮城県では市町村と県との物流については全て県図書館のほうで費用を負担しています。市町村図書館はいくら宮城県図書館と資料をやり取りしても無料ですので、まったくお金がかからず負担無く資料のやり取りができます。そして各市町村同士の物流についても、県図書館がハブとなって毎週水曜日に発送をしていますので、ちょっと時間はかかりますが、市町村図書館間の物流も無料で実現しています。そうした物流の中継点としての役割も県図書館は担っています。

一般的な協力レファレンスなども MY-NET から申し込めます。今回のテーマになっている情報交換や、掲示板についても「サイボウズ」というグループウェ

アを使用することで可能になります。例として事務連絡、アンケート、メンテナンス情報の広報、「寄贈がありましたがこの資料は要りますか」というような告知、あるいは会議の記録、そういったものは全部グループウェア上に掲載できます。これらの掲示板はそれぞれアカウントをもっている人が自由に編集して発信可能です。

郷土資料や文化財の報告書といった市販の MARC が存在しない書誌情報をこの MY-NET からダウンロードして、各市町村で使うことができます。なかなか MARC を作るのも大変ですので、そういった手間を省くということも県図書館としてできる貢献の一つと思っています。

MY-NET の概要ですが、これはウェブ上のシステムです。特に何かのインストールが必要だというような特別なソフトウェアではありません。インターネットがつながって、ブラウザさえ開ければアクセスできるものになっています。公民館の小さな図書室などですと、メールアドレスさえ割り当てられていないというような環境ですので、そういった図書室でも参加できるような環境づくりをこのウェブ上のシステムで実現しています。こちらはようやくといったところですが、平成 25 年に全市町村が MY-NET に加入しました。基本的に県内の読書関係施設全てはこの MY-NET 上での情報のやり取りが可能になり、相互貸借の申し込みもできるようになりました。これにかかる経費についても、県図書館が運営しておりますので県で負担しております。その情報交換に使っているグループウェア部分だけの情報ですが、ID が 100 個あって十万円くらいの更新費用ということになっております。

【「MY-NET」の機能】

では MY-NET の細かい機能についてざっと説明していきたいと思います。こちらが先ほど申し上げたトップ画面です。左側に多くのメニューがあります。トップ画面のところにこのように休館情報が載せられます。これはそれぞれの館が自由に編集できます。この間は蔵書点検期間でしたので、各市町村で活発に発信されていきました。この多賀城市立図書館はツタヤ図書館で有名な CCC による指定管理に 3 月 21 日からなりますので、その移転作業に伴って休館するという情報を掲載しております。

この MY-NET では協力貸出や相互貸借の申請ができます。蔵書検索と書かれているメニューをクリックすると、右側にインターネットで公開されている宮城県図書館の OPAC とまったく同じ画面が開きます。これは私が MY-NET のミソと思っているところですが、この MY-NET にログインした状態で宮城県図書館の OPAC にアクセスすると、資料の検索結果から直接その下部分に「協力貸出を依頼する」というボタンが出てきます。そこから「借受依頼をする」という緑色

のボタンを押すと、各市町村図書館から県図書館へ依頼が完了します。おそらく従来の相互貸借では、OPAC を開いて検索結果を確認し、貸出状態も確認し、その後様式に書き写して FAX やメールをするといった手続きをとると思います。MY-NET では OPAC と協力貸出がシームレスに繋がっていて、県図書館の OPAC から直接すぐに申し込めます。このように、市町村図書館が気軽に県から借りられるという仕組みになっています。また、「申請カートに入れる」という方法もあります。単品ではなく、大量に申込をする場合はカートにいったん溜めて一気に申請することも可能です。

それから県内の図書館総合目録です。これもクリックすると右側にインターネットで公開されている横断検索の画面が出てきます。県への貸出申込と同様に横断検索の画面から検索し、直接それぞれの市町村図書館に対して相互貸借の依頼ができます。例えば「ゾロリ」で検索します。塩竈市民図書館にあることがわかりますので、塩竈市民図書館の資料一覧を確認し、そこでタイトルをクリックします。申請画面に移るので、ここはまだ完全には自動化してないので手動で転記する必要があるのですが、相互貸借が申し込めます。各市町村図書館のシステムはそれぞれ異なりますので、そのシステムとの接続は最後の最後に手動に頼らないといけません、それでもほぼシームレスに横断検索画面から相互貸借が申し込めるようになっています。

この MY-NET 上で申し込んだものについてのステータス管理なども出来ます。「県内相互貸借 ILL」のメニューに「借受館機能」、「貸出館機能」があります。ここから借受状況、現在どこの図書館から何件借りているのか、申請中の資料が何件で、依頼先の図書館で確認中のものが何件で、既に他利用者に貸出済みのため予約されているものが何件で、現在配送中でこちらの図書館に向かっていているものが何件で、こちらの図書館で利用者に貸出中の資料が何件で、返送中のものが何件ある、というようにステータスが全部わかります。このような形で、県内相互貸借あるいは協力貸出の状況が一覧できます。また資料の一覧なども出力できます。リスト出力によってエクセルなどにも抽出できますので、その一覧を使って加工がしやすいです。貸出状況も、県図書館では大量に貸出を行っています、どの図書館にどの資料を何冊貸しているのかというのがすぐに分かる仕組みです。

さきほど県図書館が物流のハブになっているということを申し上げましたが、毎週水曜日は本当に Amazon の倉庫といってもいいような状況で、県図書館の職員がいっせいに各市町村からの資料を、それぞれ向かう図書館へのかごに入れる作業を半日かけてやります。その際あて先のわからない荷物が結構あります。そういった場合 MY-NET 開始前は不明になってしまうことがあったのですが、

MY-NET で資料検索して確認すればこれは何処から何処へ向かうものか、ということがすぐに分かります。

それから書誌ダウンロードについても、例えば「北上川流域を学べる年表」というような宮城県の郷土資料について、なかなか MARC で市販されているものではありません。ですから県図書館で作った MARC を必要な出力形式や文字コードでダウンロードし、各市町村のシステムに取り込むことが出来ようになっています。TRC - T タイプ、U タイプ等の形式を指定できます。U タイプは既に使用されていないですが、U タイプでも出力できるようになっています。これは修正する必要があります。

それから情報交換です。MY-NET に「情報交換」という項目があります。ここからグループウェア、「サイボウズ Office10」にリンクします。そこでグループウェアの標準的な機能であるメッセージ、掲示板、スケジュール管理といったコミュニケーションツールをそれぞれの市町村図書館で ID を割り当てることで自由に利用できるようにしています。それからこのサイボウズの中にカスタムアプリというものが作れます。これを使用して県図書館ではレファレンスの受け付けをする依頼フォームを作っています。自動的に連番がふられ、必須項目入力の確認、レファレンス依頼の状況が分かる仕組みです。この画像のように申込中、要確認、完了などといったステータスの確認ができます。他にもメッセージ機能を利用して「こんな本が県図書館に届きましたけど受入れますか？」というような寄贈の報告や、「図書館年鑑を作るので現状調査ご協力お願いします。」とか、事務連絡、会議の出欠のアンケート、テキスト記録の掲載、運営に関する情報などを報告できます。また、掲示板を使って全市町村図書館、公民館全体に通知するような内容を掲載しています。以前は郵送等で対応していたものが掲示板に移ったことによって、無駄な文書のやり取りが無くなって郵送費の節約にもなっています。

この画像のように、掲示板にはいろいろなテーマがあります。県図書館からのお知らせや、災害情報、地震以外にも、夏のゲリラ豪雨などの際も頻繁に「大丈夫ですか？」と連絡して被害がないかを確認しています。図書館の運営に関するアンケート、県図書館から市町村に聞きたいことや、市町村から各市町村にたいして聞いてみたいことなども結構やりとりされています。相互貸借で「こういうことを注意してください」といったこともこちらで掲示していますし、システムに関する Q&A も掲載しています。

【「MY-NET」の課題について】

まとめとなりますが、宮城県図書館情報ネットワーク「MY-NET」が、県図書

館が各市町村に対して、図書館の協力事業支援を行うためのポータル、窓口になっているということをお分かりいただけたかと思います。県内各市町村の図書館にとっては、MY-NET 上で相互貸借の申込等が完結しますので、相互貸借の業務ツールにもなっています。ほかにもサイボウズのグループウェアを使ってアカウントを持っている職員が自由に書き込めます。市町村図書館だけではなく、県図書館の場合はそれぞれの担当ごとに ID が振られていますので、例えば児童図書担当から児童サービスに関する情報を市町村図書館に知らせることや、調査相談の職員が市町村へ回答するなど、それぞれの担当がそれぞれの ID を使って発信できるのです。ということはシステム担当が一気に掲載をする手続きを取らなくてもよく、それぞれが自分たちの判断で、もちろんそれぞれの所属長に決裁をとりますが、掲載することができます。そうした県内の図書館同士の通信、情報交換の場にもなっているということです。

今後の課題として、MY-NET の統計機能があります。現在宮城県図書館の図書館システムは、NALIS という NTT データ九州のシステムですが、MY-NET の情報と相互にリンクしており、NALIS で貸出をすれば自動的に MY-NET でも貸出の処理がされます。しかし各市町村図書館のシステムとはリンクしていません。各市町村のシステムは、NEC や富士通などいろいろなシステムがありますが、MY-NET に対応していません。ですから各市町村図書館のシステムで処理したものを MY-NET でも別に処理しなければいけないという点が手間となっています。できればその部分でもリンクできればよいと考えていますが、なかなか難しいところです。システムがつながれば統計機能なども自動的にカウントが可能なので、手動でのカウントにない方法を考える必要があります。

協レファレンスはさきほどサイボウズのフォームを使って申し込んでいただくといいましたが、NALIS にも協レファレンスを管理する機能があります。サイボウズからレファレンスを申し込めば NALIS にもシームレスにつながってデータが取り込まれるということになれば良いのですが、現状その部分につながっておらず、担当者が転記する作業が必要になっています。そのあたりが自動化すればもっと業務を効率化できると考えております。それから、これはどんなシステムでも避けて通れないものですが、ブラウザのバージョンアップ、あるいはセキュリティの脆弱性などの報告があると、その対応でシステム担当者が1日2日拘束されるといったことがあります。ウェブシステムを管理する際はこういった問題から避けられないのですが、そこに振り回されているという課題があります。

また、とても大事であると思っていることが、システムの操作性です。やはり第一印象でとっつきやすく、わかりやすくないと市町村の職員も使いにくいと思うようになります。使いにくいと使う気にならないわけですから、使いや

すさというのはシステムをとときにはもっと追求したほうが良いと考えています。システムが使いやすければ「これはどうやって使えばいいの?」といった問い合わせも減り、運営側も楽になるのです。ですから操作性については妥協をせず、わかりやすいインターフェイスでわかりやすい仕組みというものを構築する必要があると思っています。それによって「それでは使ってみようかな」と考える人も増えますし、そうしてシステムを使う人が増えてくれば、県内市町村図書館同士のやり取りや、県図書館と市町村のやり取りが増えていって、結果的には県内の市町村図書館の盛り上げ、活発化につながっていくのだと考えております。

以上、駆け足となりましたけれども、宮城県図書館情報ネットワーク MY-NET についての紹介でした。ありがとうございました。